

Q1

専門とされている分野は？

専門はマクロ経済動学です。特に、金融危機とその後の長期低迷、その際の経済政策の運営方法についてこれまで研究してきました。金融危機の発生要因の大部分は人々の期待過誤にあると言われており、それをモデル内で再現し、人々の期待に働きかける政策の有効性について考えています。また、最近では感染動学を考慮に入れた経済モデルにも注目し、外出自粛と経済支援の最適解を考えることもしています。

Q2

授業では経済学、金融論について、どの様に学んでいくのでしょうか？

現実の経済活動や景気変動、金融動向などは理論と不確実性の組み合わせで起こっていると思っています。そのため、理論をきちんと学び、実際のデータの動きで説明できる部分と不確実な部分を知ることが大事であると考えています。一例として、不完全雇用のときに中央銀行が金利を引き下げる理由は何なのか、それでも不況が発生する理由はどこにあるのか、さらに、不確実な世の中で政府や中央銀行がどのような政策を行い、その意図が何であるのかを学んでいます。

Q3

大学で経済学、金融論について学ぶ魅力とは？

経済学はそれだけで完了するものではなく、むしろ数学や社会科学のような基礎学問だと思っています。経済学をきちんと学ぶことにより、他の学問をより深く考察する能力を得ることができるはず。金融論は応用科目との位置づけで、当然、経済学で学んだことを使って多くのことを考察することができます。また、資産運用を個人的に行う機会も増えると思いますが、そのときにリスクを計測しリターンを確保する力が必要となりますし、世界経済がどのように動き、それを政府や中央銀行がどのように評価し、政策判断を行うのかを予測することも大事なこととなります。

KONECO
に載らない
先生話
の話

Q4

学生に求めるものとは？

大学で学ぶ学問は互いに関連し合っていると思っています。現実社会は自然科学と違い答えがあるものがむしろ少ない状況です。そのため、覚えるのではなく考える力を養い、答えのないものに自分なりの答えを導き出し、それを主張できる論理を身に付けてもらいたいと思っています。



今回お話を伺う先生は…

経営学部
経営学科
福田 慎 教授
FUKUDA SHIN

Q5

ご趣味は？

特にありませんが、ひとりで没頭できることを探しています。

Q6

好きな食べ物？

実家の近所にあった肉のオオタニのコーンスープ。閉店したのでもう食べられません。箱根の餃子センターのスタミナ餃子。駐車場が移転したのでもう行くこともないかもしれません。

Q7

好きな音楽？

あまり音楽を聴かなくなりましたが、最近ではブラック・サバスやメタリカなど70年代から90年代のアイドゥルグループの音楽を聴いています。



Q8

学生時代の印象的なエピソードは？

高校生までは家では勉強せず授業中の勉強だけでどこまでいけるかに命を懸けていました。ただ、大学では無理だということに気付き、大学院で勉強するきっかけになりました。



先生の授業を受ける学生に向けてメッセージをお願いいたします。

自分にとって現時点でマイナスとなることは将来時点でもマイナスとなるかもしれませんが、ゼロであることは将来プラスになるかもしれないので、チャレンジしてもらいたいと思っています。

